

3/4-5 岩手県での活動報告

東京支部 櫻井

<経緯について>

今回の始まりは県民会議が開催されるということを所内で聞いたことが始まりです。岩手県には依然としていくことができなかつたため、状況を知りたいという気持ちが強く参加しました。

<参加者>

東京支部：櫻井、林、丸谷、片柳

盛岡支部：小笠原、富岡

奈良支部：渡邊

<行動記録>

2012年3月4日（日）

電車にて盛岡入り

13:00～ 岩手県民会議（盛岡市岩手水産会館）

2012年3月5日（月）

8:00～ 陸前高田市へ移動

11:00～ 広田保育園で話を聞く

12:00～？ 陸前高田市役所

13:00～？ 社会福祉協議会

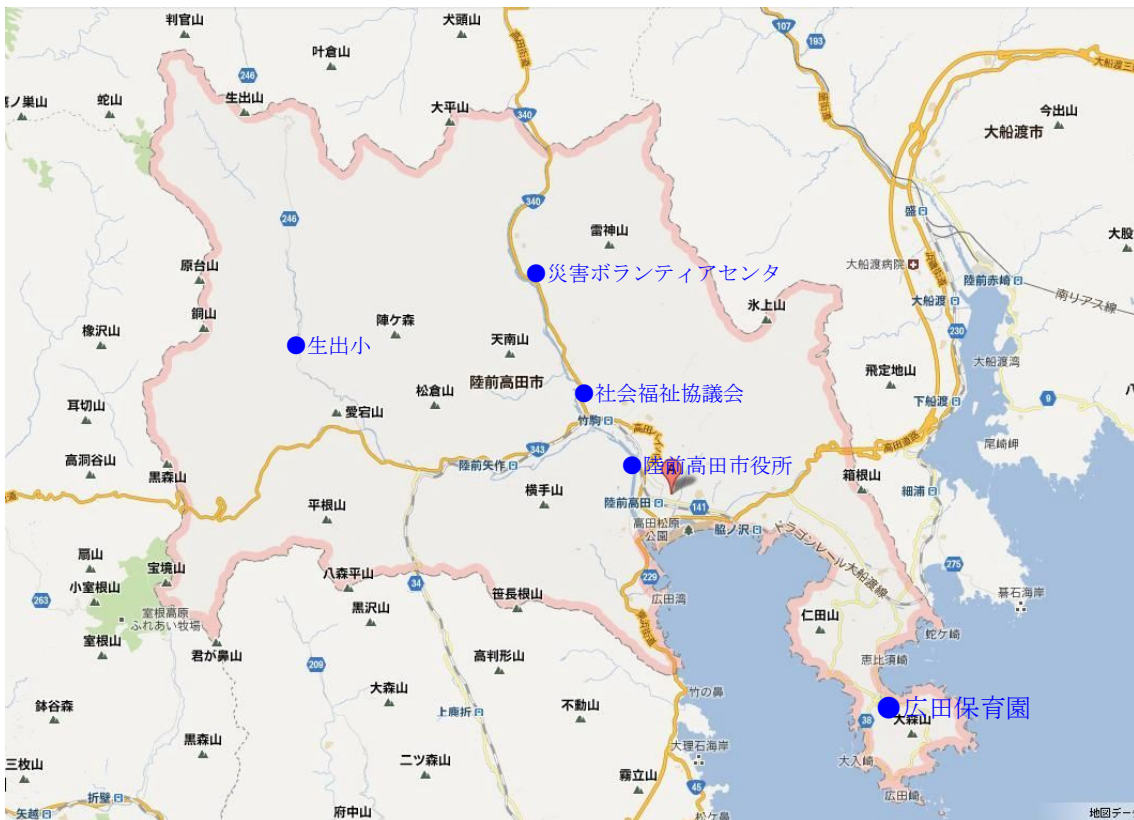
13:30～？ 災害ボランティアセンター

14:00～？ 生出小学校見学

一関から新幹線にて帰京

<足跡>

※地図は震災前のもの・訪問場所はおおむねの位置



<3/4 盛岡市にて岩手県民会議に参加>

会場で、丸谷さんたちと合流、室崎氏の講演と各地の被災状況を聞きました。

現地の体験に勝るものはない。参考程度に聞いてほしいとの始まりから、阪神大震災と東日本大震災の違い、被災地再生の原則としての10項目の投げかけ、そして復興は自らの力で勝ち取るものである。との終わりの言葉でした。

各地の現状報告では、陸前高田、大船、大槌、釜石、そしてNPO岩手地域総合研究所が行ったアンケート報告がありました。(被害状況等については下の表による)

NPO岩手地域総合研究所が行ったアンケートでは、役所などに勤務する公的な立場の方々に対して行ったアンケートの中間報告がありました。意見として挙げたのは、「モチベーションが続かない」「休みがない」とする不満の声や、人員配置、人手の足りなさ、将来に対する不安といったことが多かったようです。

そして、この会の終わりに岩手復興会議の世話人、東氏からの言葉がありました。この震災についての経産省の見解として、30年後には人口、経済ともに20~30%減少するらしいです。復興、問題解決に向けては若者が働ける場所をつくること、子どもをいなくさせない仕組み、そして自然エネルギーを事業にしていくことが必要だとの提言がありました。住宅となるべく地域型復興住宅を作ろうにも技術者がいないことや、住民の気持ちが離れすぎて、結局はコンサル任せになってしまうという発言もありました。室崎氏の講演の中でも似たような話がありました。北海道奥尻島でも津波被害があり、復興の手段として高台移転を選んだそうです。最終的には海岸に20m堤防の設置をしたそうですが、それによって観光客はいなくなったそうです。

復興にかけるマンパワーの不足、一行に進まない事態への不満、不安。そして津波を抑えるために検討されている堤防による観光地の消滅。ハードとソフトの両面が揺らいでいきているように感じました。

◇各地の報告まとめ

地名	現状
陸前高田	<ul style="list-style-type: none">・ 一万人が避難生活・ 住宅の確保と生活、生業が最優先
大船	<ul style="list-style-type: none">・ 大船市をよくする会が活動中（8団体が加入）・ 漁業を行うための船が必要
大槌町	<ul style="list-style-type: none">・ 生活と健康を守る会が活動中・ 意向調査を実施した・ 病院がない（入院、救急なし）
釜石	<ul style="list-style-type: none">・ 津波体験集をだす・ 防波堤の建設方法を検討中・ 仮設にひさしがない

<3/5 陸前高田市周辺へ>

朝、雪の舞う中、陸前高田市へ向かいました。訪問した先は、広田保育園、陸前高田市役所、社会福祉協議会、災害ボランティアセンターへ行きました。丸谷さんが考えている職業訓練学校の内容を伝え、新建の今後の技術的な協力を約束してきました。

そして職業訓練学校へ活用できそうな校舎、生田小学校を見学し、一関から帰京しました。

<今回思ったこと>

今回、参加したまではよかったのですが、結局はなにもできてない。というのが感想です。

陸前高田の市内では、車中で地図を改めて眺めて、その悲惨さと被害を受けて残った建物、内部の備えものを見て、言葉を失ったというか、写真取るのは不謹慎かなと思いました。なんとなく人が居たこと、津波で人が死んだということを考えると、気持ちが萎えてしまったように思います。これまでも、仙台には何度か行っていますが、あまり被害が大きかった印象を受けませんでした。(街中、主に長町周辺に行っていた)

なぜ、今回そう思ったのは街がまるごとひとつ消えたという事実があった、どうしようもないというか、今になってはなんともいえないですが、惨さを感じたように思います。そしてどんなに高い防波堤をつくろうが結局はいかにして逃げるかっていうほうが大切だと思いました。

これからどのように手助けをしていくか、ということについてはまだ「技術者」というスタンスではないかと少しなばかり思いました。もう少し一人の人間としてできることに向かいながら、必要なことに力を注ぎたいと思いました。

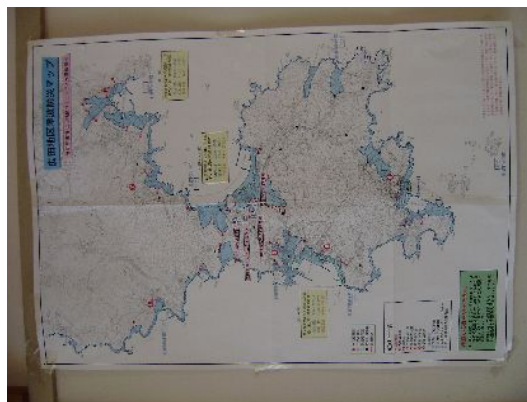
最近読んだ本の中で「震災は地方都市の問題を浮き彫りにする」という言葉があり、高齢化、過疎が起こる原因としては「生業」がないということがあがるのだと思います。そういった点では丸谷さんの考えている、職業訓練学校によって、若者、生業を少しでも応援できるということすばらしいように感じました。

<写真>

↓ 県民会議にて 合唱もあった



↓ 広田保育園で見た地図 広田半島の状況



↓ 保育園に飾られていた写真



↓ 市内はずれ 道路が走っていた



↓ 仮設の陸前高田市役所



↓ 津波を受けた建物

